Cisco UCS Director セルフサービス ポータル ガイド、リリース 5.2

初版：2014 年 12 月 19 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

© 2014-2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

はじめに vii

対象読者 vii

表記法 viii

関連資料 ix

マニュアルに関するフィードバック x

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート x

新機能および変更された機能に関する情報 1

このリリースの新規情報および変更情報 1

セルフサービス ポータルの概要 3

Self-Service Portal ポータルについて 3

Self-Service Portalへのログイン 3

ユーザ グループの作成 4

ユーザの追加 5

インターフェイスの詳細 6

セルフサービス プロビジョニングの使用方法 9

サービス リクエストについて 9

サービス リクエスト ワークフロー 10

標準のカタログ用サービス リクエストの作成 11

詳細なカタログのサービス リクエストの作成 15

VDI カタログのサービス リクエストの作成 16

サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成 17

サービス リクエスト ステータスの表示 19

プロビジョニング サービスの延期リクエストの作成 21

サービス リクエスト VM プロビジョニングの使用方法 22

既存のアプリケーション コンテナへの VM の追加 25

サービス リクエストの管理 29

サービス リクエストの管理 29
サービス リクエストの再送信 29
サービス リクエストのキャンセル 30
グループのサービス リクエスト履歴の表示 31
グループのサービス リクエスト履歴の検索 31
グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート 31
サービス リクエストの承認 32
サービス リクエストの承認 32
サービス リクエスト承認履歴の表示 32
サービス リクエスト承認履歴の検索 33
サービス リクエスト承認履歴のエクスポート 33
VM ライフサイクル管理の実行 35
VM ライフサイクル管理アクションについて 35
すべての VM の表示 36
VM の電力管理 36
VM のサイズ変更 37
VM ディスクの作成 38
VM ディスクの削除 39
vNIC の追加 40
vNIC の置換 41
vNIC の削除 41
VM の詳細の表示 42
VM クライアントの起動 42
VM のインベントリ収集のリクエスト 43
VM スナップショットの管理 45
VM スナップショットの管理 45
VM スナップショットの表示 46
スナップショットの作成 46
スナップショットの復帰 47
スナップショットをゴールデンとしてマーキング 48
スナップショットの削除 49
すべてのスナップショットの削除 49

エンド ユーザ レポートの表示 51
エンド ユーザ レポートの表示 51
VM サマリーの詳細の表示 53
仮想リソースの詳細の表示 53
vDC の詳細の表示 53
物理レポートの表示 57
物理リソースに関するレポートの表示 57
アカウンティング リソースの表示 59
リソース アカウンティングの詳細の表示 59
チャージバックの表示 60
エンド ユーザ ダッシュボードの表示 61
エンド ユーザ ダッシュボード ビューの有効化 61
レポート ウィジェットの追加 61
ファイルのアップロード サービスの操作 63
OVF ファイルのアップロード 63
OVF ファイルの導入 64
OVF ファイルの削除 66
カタログを使用 67
カタログ管理について 67
カタログの構成 68
高度なカタログ パブリッシングについて 68
カタログの作成 69
カタログの編集 73

はじめに

ここでは、次の項について説明します。

- 対象読者，vii ページ
- 表記法，viii ページ
- 関連資料，ix ページ
- マニュアルに関するフィードバック，x ページ
- マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート，x ページ

対象読者

このマニュアルは、Cisco UCS Director または を使用し、以下の少なくとも 1 つの分野において責任と専門知識を持つデータセンター管理者を主に対象としています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ
- 仮想化および仮想マシン

表記法

テキストのタイプ	用途
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドのラベルのようなGUI要素は、[GUI要素] のように示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメイン タイトルは、[メイン タイトル] のように示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体（*italic*）で示しています。
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナル セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、ボールド体（**bold**）で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体（*italic*）で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x | y | z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x | y | z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。 string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符（!）またはポンド記号（#）がある場合には、コメント行であることを示します。

（注） 「注釈」です。 役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。 ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

注意 「要注意」の意味です。 機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

ワンポイント アドバイス 「時間の節約に役立つ操作」です。 ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

警告 安全上の重要事項

「危険」の意味です。 人身事故を予防するための注意事項が記述されています。 機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。 警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。

これらの注意事項を保存しておいてください。

関連資料

『Cisco UCS Director Documentation Roadmap』

Cisco UCS Directorの資料の詳細なリストについては、次の URL にある 『*Cisco UCS Director Documentation Roadmap*』 を参照してください：http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/ucs-director/doc-roadmap/b_UCSDirectorDocRoadmap.html。

『Cisco UCS Documentation Roadmaps』

すべての B シリーズ マニュアルの一覧については、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc で入手できる『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

すべての C シリーズ マニュアルの一覧については、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc で入手できる『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

（注） 『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』には Cisco UCS Manager および Cisco UCS Central のドキュメントのリンクが含まれています。『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』には Cisco Integrated Management Controller のドキュメントのリンクが含まれています。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。 ご協力をよろしくお願いいたします。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。 RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報

この章は、次の内容で構成されています。

- このリリースの新規情報および変更情報，1 ページ

このリリースの新規情報および変更情報

次の表は、この最新リリースに関するマニュアルでの主な変更点の概要を示したものです。 この表は、このマニュアルに加えられた変更やこのリリースの新しい機能をすべて網羅するものではありません。

表 *1*：*Cisco UCS Director* リリース *5.1* の新機能と変更された動作

機能	説明	参照先
既存のカタログへの VM の追加。	セルフサービス ポータルから既存のカタログに VM を追加する機能を使用できます。	既存のアプリケーション コンテナへの VM の追加，（25 ページ）

第 2 章

セルフサービス ポータルの概要

この章は、次の内容で構成されています。

- Self-Service Portal ポータルについて，3 ページ
- Self-Service Portalへのログイン，3 ページ
- インターフェイスの詳細，6 ページ

Self-Service Portal ポータルについて

セルフサービスのプロビジョニング、モニタリング、および管理機能に Cisco UCS Director Self-Service Portalを使用できます。 Self-Service Portalを使用すると、定義済みポリシーを使用して、割り当てられたリソース プールからプロビジョニングされた仮想マシンにアクセスできます。

Self-Service Portalへのログイン

新しいユーザを作成してポータルにアクセスできるようにするには、新規ユーザを追加するグループを作成する必要があります。 追加された新規ユーザは、標準の Cisco UCS Director ログイン画面から、新しいユーザ ログイン名およびパスワードを使用してログインします。

ユーザ グループの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [ユーザとグループ] の順に選択します。

ステップ 2 [ユーザ グループ] タブをクリックします。

ステップ 3 [追加] をクリックします。

ステップ 4 [グループの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[名前] フィールド	グループまたは顧客組織の名前。
[説明] フィールド	グループまたは顧客組織の説明（必要な場合）。
[コード] フィールド	グループの短い名前またはコード名。 この名前は、VM とホスト名テンプレートで使用されます。
[コストセンター]フィールド	（任意）コストセンターの名前または番号（必要な場合）。 この名前または番号は、グループが関連付けられているコストセンターを表します。 この名前は、VMware システム ポリシー VM の命名規則で使用できます。 命名規則にコストセンターを使用する方法の詳細については、管理のポリシーを参照してください。
[連絡先の電子メール] フィールド	この電子メールアドレスは、必要に応じてサービス リクエストとリクエスト承認のステータスをグループ所有者に通知するために使用されます。
[名] フィールド	連絡先の名。
[姓] フィールド	連絡先の姓。
[電話] フィールド	連絡先の電話番号。
[住所] フィールド	連絡先の住所。
[Group Share Policy（グループ共有ポリシー）] ドロップダウン リスト	このグループ内のユーザのグループ共有ポリシーを選択します。 このドロップダウン リストにデータが取り込まれるのは、グループ共有ポリシーを作成した場合だけです。 このポリシーの作成の詳細については、 グループ作成共有ポリシー を参照してください。

フィールド名	説明
[ユーザへのリソース割り当てを許可] チェックボックス	オンにすると、ユーザにこのグループのリソースが割り当てられ、それらのリソースを所有できます。またこれらのユーザは、グループに属するリソースを表示できます。ただし、ユーザ間でリソースを共有することはできません。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

次の作業

さらにグループを追加する場合は、この手順を繰り返します。追加するグループごとに、リソース制限の編集、タグの管理、ロゴおよびアプリケーション ラベルをカスタマイズできます。

ユーザの追加

はじめる前に

グループにユーザを追加する前に、そのグループが作成されていることを確認してください。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [ユーザとグループ] の順に選択します。
ステップ 2 [ログインユーザ] タブをクリックします。
ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。
ステップ 4 [ユーザの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[ユーザロール] ドロップダウン リスト	ユーザのロール タイプを選択します。 （注） このドロップダウン リストには、Cisco UCS Director で使用可能なすべてのユーザ ロールが表示されます。デフォルトで使用可能なユーザ ロールに加えて、追加のユーザ ロールを作成できます。ユーザ ロールの作成の詳細については、ユーザ ロールの追加を参照してください。
[ログイン名] フィールド	ログイン名。

フィールド名	説明
[パスワード] フィールド	パスワード。 （注） ユーザに対して Lightweight Directory Access Protocol（LDAP）認証が設定されている場合、パスワードはローカル サーバではなく、LDAP サーバでのみ検証されます。
[パスワードの確認] フィールド	確認のためにパスワードを再入力します。
[ユーザの連絡先電子メール] フィールド	電子メール アドレス。 （注） 電子メール アドレスは、サービス リクエストのステータスをグループ所有者に通知し、承認を要求するために必要です。
[名] フィールド	名。
[姓] フィールド	姓。
[電話] フィールド	ユーザの電話番号です。
[住所] フィールド	ユーザの郵便住所です。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

次の作業

ユーザをメイン ウィンドウから選択し、[プロファイルの管理]をクリックすると、任意でそのユーザに複数のロールを割り当てることができます。

インターフェイスの詳細

Self-Service Portal グラフィカル ユーザ インターフェイス（GUI）は、特定Cisco UCS Director 機能が割り当てられた複数のボタンで構成されます。 Cisco UCS Director Self-Service Portal GUI には、Cisco UCS Director 情報のサブセットが表示されます。 詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。

ボタン	説明
カタログ	使用可能なカタログの情報を表示します。

ボタン	説明
サービス	使用可能なサービス リクエストを表示します。 このタブから、サービス リクエストの作成とファイルのアップロードも実行できます。 このボタンを使用して、支払いの実施と更新、および現在の資金の確認を実行できます。 • サービス リクエスト • ファイルのアップロード • 支払い情報
承認	サービス リクエストの承認のステータスほか、承認を開始したユーザ、カタログ タイプ、および承認を許可したユーザを表示します。
マニュアルの構成	次の詳細情報を表示するタブが提供されます。 • 組織のリソースのサマリー • リソース制限値 • OS 使用率 • その他のレポート（傾向分析データに焦点を当てた追加レポート）
仮想リソース	次の詳細情報を表示するタブが提供されます。 • 仮想リソースのサマリー • vDC • アプリケーション コンテナ • VM • VM アクション リクエスト • ポート グループ • DV ポート グループ • リソース プール • データ ストア • デスクトップ • その他のレポート（傾向分析データに焦点を当てた追加レポート）

ボタン	説明
物理リソース	次の詳細情報を表示するタブが提供されます。 • vFiler • Vservers • ボリューム グループ • サーバ • サービス プロファイル
アカウンティング	次の詳細情報を表示するタブが提供されます。 • リソース アカウンティングの詳細 • チャージバック
CloudSense™	顧客、グループまたはユーザのレポートが提供されます。

第 3 章

セルフサービス プロビジョニングの使用方法

- サービス リクエストについて，9 ページ
- サービス リクエスト ワークフロー，10 ページ
- 標準のカタログ用サービス リクエストの作成，11 ページ
- 詳細なカタログのサービス リクエストの作成，15 ページ
- VDI カタログのサービス リクエストの作成，16 ページ
- サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成，17 ページ
- サービス リクエスト ステータスの表示，19 ページ
- プロビジョニング サービスの延期リクエストの作成，21 ページ
- サービス リクエスト VM プロビジョニングの使用方法，22 ページ
- 既存のアプリケーション コンテナへの VM の追加，25 ページ

サービス リクエストについて

セルフサービス プロビジョニング機能を使用してサービス リクエストを作成し、仮想マシン（VM）、サービス、またはアプリケーションをプロビジョニングできます。 サービス リクエスト プロセスではVM作成用のプロビジョニング ワークフローを作成しますが、これには次のアクションが含まれます。

- 予算の検証
- 動的なリソース割り当て
- 承認
- プロビジョニング

- ライフサイクルの設定および通知

（注） [展開構成] ペインで CPU コアの数またはメモリ割り当てを変更すると、総コストが自動的に更新されて表示されます。

VM をプロビジョニングするまたはオーケストレーション ワークフローを実行するには、最初にサービス リクエストを作成する必要があります。 管理者または該当のユーザがサービス リクエストを承認すると、VM がプロビジョニングされます。 VM はただちに承認することも、オリジナルのリクエストから 90 日以内に承認するようにスケジュールすることもできます。

（注） サービス リクエスト承認プロセスはオプションです。

管理者はオーケストレーション ワークフローをカタログとしてセルフサービス ポータルに提供できます。 サービス リクエストの承認プロセスは 1 人または 2 人のユーザによる承認が必要です。 このようなシナリオでは、VM をプロビジョニングするには管理者および IT 管理者がリクエストを承認する必要があります。

サービス リクエスト ワークフロー

サービス リクエスト ワークフローは次のいくつかの段階に要約できます。

- **開始**：サービス リクエストの開始。
- **リソース割り当て**：VM プロビジョニングに必要なリソース。
- **承認**：グループの仮想データ センター（vDC）で定義されるサービス リクエストの承認プロセス。 サービス リクエストの承認者にはリクエストに関する電子メールが送信されます。 承認者がリクエストを承認すると、VM がプロビジョニングされます。
- **プロビジョニング**：VM をプロビジョニングする行為。
- **ライフサイクル スケジュールの設定**：予定時刻および終了時刻。
- **通知**：VM のプロビジョニングを知らせるためにユーザに送信される電子メール通知。

定義されている場合は、次のプロセスもサービス リクエストのワークフローに適用されます。

- **予算の監視（オプション）**：このプロセスではグループに VM をプロビジョニングするのに十分なリソースが使用可能かどうかが判断されます。 リソースは [組織] > [リソース制限] タブを選択して表示できます。 リクエストを送信した後、[詳細の表示] を選択してステータスを表示できます。

標準のカタログ用サービス リクエストの作成

管理者がカタログをグループに発行すると、エンドユーザは必要なカタログを選択してサービスリクエストを作成できます。 管理者は、オーケストレーション ワークフローが含まれるセルフサービスポータルをカタログの形式で提供します。 管理者が発行できるカタログには、標準のカタログ、詳細、サービスコンテナ、または VDI があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] を選択します。

ステップ 2 [サービスリクエスト] タブをクリックします。

ステップ 3 [リクエストの作成] をクリックします。

ステップ 4 [サービスリクエストの作成]ダイアログボックスで、次のフィールドを入力します。

名前	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 [標準] を選択します。 その他のオプションは次のとおりです。 • [詳細] : このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。 • [サービスコンテナ] : このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。 • [VDI] : このカタログ タイプは Xen Desktop で使用されます。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

ステップ 6 [カタログの選択] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[VM所有者]	
[顧客組織] オプション ボタン	VM をプロビジョニングする対象の顧客組織を選択するには、このオプション ボタンを選択します。

名前	説明
[顧客組織] フィールド	[選択] をクリックして、VM をプロビジョニングする対象の顧客組織を選択します。 （注） 有効な vDC を所有している顧客組織が表示されます。 このフィールドが表示されるのは、[グループ] オプション ボタンをオンにした場合のみです。
[ユーザ] オプション ボタン	VM をプロビジョニングする対象のユーザを選択するには、このオプション ボタンをオンにします。
[ユーザ] フィールド	[選択] をクリックして、VM をプロビジョニングする対象のユーザを選択します。 このリストには、ユーザへのリソース割り当てを許可するグループのユーザが読み込まれます。 （注） 現在、特定のエンド ユーザに割り当てることができるのは、VMWare クラウド内の VM だけです。
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	前に選択されたカタログ タイプが表示されます。 この属性の種類は次のとおりです。 • 標準 • 詳細 • サービスコンテナ • VDI
[カタログの選択] ドロップダウン リスト	VM のプロビジョニングに使用されるカタログを選択します。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。 [導入設定] 画面が表示されます。

ステップ 8 [導入仕様] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[vDCの選択] ドロップダウン リスト	VM がプロビジョニングされる vDC（仮想データ センター）を選択します。 vDC は管理者が定義し、エンドユーザは VM がプロビジョニングされる vDC を選択する必要があります。

名前	説明
[コメント] フィールド	導入設定に関連するコメントを入力します。
[プロビジョニング]フィールド ドロップダウン リスト	プロビジョニングを導入するタイミング。次のいずれかを選択します。 • [あとで]：プロビジョニングを後で導入する場合に選択します。 • [現在]：プロビジョニング設定を今すぐ導入する場合に選択します。
[次の期間後にVMの電源をオフにする:] チェックボックス	オンにすると、システムがVMの電源をオフにします。 VM を（自動的に）終了するまでの VM の保持期間を日数および時間で割り当てることができます。 [日数]：VM を終了するまでの日数を入力します。 [時間]：VM を終了するまでの時間を入力します。 VMは指定の日数および時間の経過後に終了されます。
[VM名のサフィックス] フィールド	必要な場合は、VM のサフィックス名を指定します。 名前（ラベル）が VM 名に追加されます。 （注） これは、vDC に関連付けられた VMware システム ポリシー（上記で選択）で管理者がこのオプションを有効にした場合にのみ使用できます。

ステップ 9 [次へ] をクリックします。
[カスタム仕様] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[CPUコア] フィールド	プロビジョニング中の VM に使用されている CPU 数。 このリストは、コンピューティング ポリシーでサイズ変更オプションを設定している場合にのみ使用可能です。
[メモリ] フィールド	プロビジョニング中のVMのメモリ容量。このリストは、コンピューティングポリシーでサイズ変更オプションを設定している場合にのみ使用可能です。

名前	説明
[ディスク] フィールド	プロビジョニング中のVMのデータストア。 選択できるデータストアのリストは、ストレージポリシーで確立された条件により異なります。 このオプションはストレージポリシーで有効または無効にすることができます。
[ストレージ階層] フィールド	プロビジョニング中のVMのストレージエントリ。 このリストは選択されたカタログに対して[仮想ストレージのカタログ] が有効にされている場合にのみ表示されます。
[データストアの選択] ドロップダウン リスト	データストアを選択します。 選択内容を確定するには、[送信] をクリックします。 複数のディスクを含むテンプレートでは、ディスクごとにデータストアの選択プロセスを繰り返す必要があります。 （注） 各ディスク カテゴリ（システム、データ、データベース、スワップ、およびログ）に選択できるデータストアは 1 つだけです。 データストア項目のリストは、ストレージ ポリシーの範囲条件により異なります。

ステップ 10 [次へ] をクリックします。
[カスタムワークフローの入力値] 画面が表示されます。 カタログの作成中に、VM のプロビジョニング用に選択されたカタログで、[プロビジョニング後のカスタムアクション] が選択された場合、カスタムワークフローの入力値が適用されます。 このシナリオでは、プロビジョニング後のワークフローで、エンドユーザはカスタム入力を指定できます入力オプションはカタログに接続されたワークフローによって異なります。 次のフィールドに入力します。

名前	説明
[MACアドレス] フィールド	サーバの MAC アドレス。
[IPアドレス] フィールド	サーバの IP アドレス。
[ホスト名] フィールド	サーバのホスト名。

ステップ 11 [次へ] をクリックします。
[サマリー] 画面が表示されます。 情報が正確であるか確認します。

ステップ 12 [送信] をクリックします。

[送信結果] ダイアログボックスにより、サービス リクエストが正常に送信されたことが確認されます。

次の作業

サービス リクエストのステータスを表示します。

詳細なカタログのサービス リクエストの作成

管理者がグループにカタログを発行すると、エンドユーザは必要なカタログを選択してサービスリクエストを作成できます。管理者が発行できるカタログには、標準のカタログ（VMの作成）、詳細なカタログ（オーケストレーションワークフロー）、サービスコンテナ（アプリケーションコンテナ）、VDI （Xen Desktop）があります。

はじめる前に

このタイプのサービス リクエストでは、詳細なタイプのカタログを選択できることが必要です。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] を選択します。

ステップ 2 [サービスリクエスト] タブをクリックします。

ステップ 3 [リクエストの作成] をクリックします。

ステップ 4 [サービスリクエストの作成] ダイアログボックス（[カタログの選択] ペイン）で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 次のいずれかを選択します。 • [標準]：このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。 • [詳細]：このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。 • [サービスコンテナ]：このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。 • [VDI]：このカタログ タイプはXen Desktopで使用されます。

名前	説明
[カタログの選択] ドロップダウン リスト	プロビジョニングするVMを選択します。 カタログはカタログ形式の VM です。

ステップ 5 [カタログタイプ] ドロップダウン リストで、 [詳細] を選択します。
[サービスリクエストの作成] ペインが表示されます。

ステップ 6 [カタログ] ドロップダウン リストからカタログを選択します。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [ワークフロー] ドロップダウン リストから、サービス コンテナを選択します。
[サマリー] ペインが表示されます。 情報が正確であるか確認します。

ステップ 9 [送信] をクリックします。
[送信結果] ダイアログボックスにより、サービス リクエストが正常に送信されたことが確認されます。

次の作業

既存のサービス リクエストを表示します。

VDI カタログのサービス リクエストの作成

管理者がグループにカタログを発行すると、エンドユーザは必要なカタログを選択してサービス リクエストを作成できます。管理者が発行できるカタログには、標準のカタログ（VMの作成）、詳細なカタログ（オーケストレーション ワークフロー）、サービスコンテナ（アプリケーション コンテナ）、VDI（Xen Desktop）があります。

はじめる前に

このタイプのサービス リクエストを作成するには、VDI カタログが選択可能である必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] を選択します。

ステップ 2 [サービスリクエスト] タブをクリックします。

ステップ 3 [リクエストの作成] をクリックします。

ステップ 4 [サービスリクエストの作成] ダイアログボックス（[カタログの選択] 画面）で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 次のいずれかを選択します。 • [標準]：このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。 • [詳細]：このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。 • [サービスコンテナ]：このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。 • [VDI]：このカタログ タイプは Xen Desktop で使用されます。
[カタログの選択] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM を選択します。 カタログはカタログ形式の VM です。

ステップ 5 [カタログタイプ] ドロップダウン リストで、[VDI] を選択します。
[サービスリクエストの作成] 画面が表示されます。

ステップ 6 [カタログ] ドロップダウン リストからカタログを選択します。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [ワークフロー] ドロップダウン リストから、サービス コンテナを選択します。
[サマリー] 画面が表示されます。 情報が正確であるか確認します。

ステップ 9 [送信] をクリックします。
[送信結果] ダイアログボックスで、サービス リクエストが正常に送信されたことを確認します。

次の作業

既存のサービス リクエストを表示します。

サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成

管理者がグループにカタログを発行すると、エンドユーザは必要なカタログを選択してサービス リクエストを作成できます。 管理者が発行できるカタログには、標準のカタログ（VMの作成）、

詳細なカタログ（オーケストレーション ワークフロー）、サービス コンテナ（アプリケーション コンテナ）、VDI （Xen Desktop）があります。

はじめる前に

このタイプのサービス リクエストを作成するには、サービス コンテナ カタログが選択可能である必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] を選択します。

ステップ 2 [サービスリクエスト] タブをクリックします。

ステップ 3 [リクエストの作成] をクリックします。

ステップ 4 [サービスリクエストの作成] ダイアログボックス（[カタログの選択] ペイン）で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 次のいずれかを選択します。 • [標準]：このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。 • [詳細]：このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。 • [サービスコンテナ]：このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。 • [VDI]：このカタログ タイプは Xen Desktop で使用されます。
[カタログの選択] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM を選択します。 カタログはカタログ形式の VM です。

ステップ 5 [カタログタイプ] ドロップダウン リストで、[サービスコンテナ] を選択します。
[サービスリクエストの作成] ペインが表示されます。

ステップ 6 [カタログ] ドロップダウン リストからカタログを選択します。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [サマリー] ペインで、精度の情報を確認し、[送信] をクリックします。
[送信結果] ダイアログボックスで、サービス リクエストが正常に送信されたことを確認します。

次の作業

既存のサービス リクエストを表示します。

サービス リクエスト ステータスの表示

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

手順

ステップ 1 [サービス] > [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 2 サービス リクエストを選択します。

ステップ 3 [詳細の表示] をクリックします。
[サービスリクエスト] 画面に、サービス リクエストおよび関連するワークフロー ステップの詳細が表示されます。各ワークフローステップに関するステータスは、このページから表示します。各ステップの（色分けされた）ステータスに加えて、時間などの詳細も表示されます。

- 灰色：現在もそのステップを完了する必要があることを示します。
- 緑色：ステップが正常に完了したことを示します。
- 赤色：ステップに失敗したことを示します。失敗した理由もステップの下に記載されます。
- 青色：ステップを完了するにはユーザから追加の入力が必要であることを示します。たとえば、そのサービス リクエストに対して承認が定義されていた場合は、青色でサービス リクエストが承認を待っていることが示されます。

名前	説明
[概要] セクション	
[リクエスト ID] フィールド	サービス リクエスト ID 番号。
[リクエストタイプ] フィールド	リクエストのタイプ（VM など）。
[vDC] フィールド	VM がプロビジョニングされる vDC。
[イメージ] フィールド	VMのプロビジョニングに使用されるイメージ。
[リクエスト日時] フィールド	サービス リクエストが作成された時間。
[ステータスのリクエスト] フィールド	サービスリクエストのステータス（完了、キャンセル、失敗など）。

名前	説明
[コメント] フィールド	サービス リクエストの作成中に追加したコメント。
[所有] セクション	
[グループ] フィールド	サービス リクエストを行ったユーザが属するグループ。
[送信ユーザ] フィールド	サービス リクエストを送信したユーザ。
[期間(時間)] フィールド	VM がアクティブである期間の長さ。この値を定義した場合は、指定した時間の経過後に VM が削除されます。
[予定時刻] フィールド	VM がプロビジョニングされる時刻。この値を定義した場合、VM はスケジュール設定された日付の、たとえば午前 6 時にプロビジョニングされます。この値を定義しない場合は、リクエストのワークフローが完了した直後に VM がプロビジョニングされます。
[カタログ情報] セクション	
[vDC所有者の電子メール]	vDC を作成した管理者の電子メール ID。
[承認ユーザ] セクション	VM のプロビジョニングを成功させるために、サービス リクエストを承認する必要のあるユーザ。
[カタログ項目名]	プロビジョニングに使用するカタログ項目の名前。
[カタログ項目の説明] セクション	
[SRコスト] フィールド	VM のプロビジョニングの予測コスト。このコストは、カタログ項目に対して定義されたコスト モデルに基づいて決定されます。

（注） 承認者は、承認を必要とするサービス リクエストを [承認] タブで確認できます。

プロビジョニング サービスの延期リクエストの作成

プロビジョニングの延期機能を使用して、VM のプロビジョニングを後の時刻および日付にスケジュールできます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] をクリックして、[サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 [サービスリクエスト] タブで、[リクエストの作成] をクリックします。

ステップ 3 [サービスリクエストの作成] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	次のカタログのタイプのいずれかを選択します。 • [標準]：このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。 • [詳細]：このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。 • [サービスコンテナ]：このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。 • [VDI]：このカタログ タイプは Xen Desktop で使用されます。
[カタログの選択] ドロップダウン リスト	カタログを選択します。

ステップ 4 [次へ] をクリックします。

ステップ 5 [導入設定] 画面で、次のフィールドを入力して設定を定義します。

名前	説明
[VDCの選択] ドロップダウン リスト	VDC を選択します。
[コメント] フィールド	サービス リクエストの作成中に追加したコメント。

名前	説明
[プロビジョニング] ドロップダウン リスト	暫定の状態を選択します。 • [あとで]：特定の日時を入力する場合に選択します。 • [現在]：プロビジョニングを今すぐ開始する場合に選択します。
[次の期間後にVMの電源をオフにする:] チェックボックス	オンにすると、プロビジョニングの完了後に、システムによりVMの電源がオフにされます。

ステップ 6 [閉じる] をクリックします。

サービス リクエスト VM プロビジョニングの使用方法

セルフサービスSelf-Service Portalポータルを使用して、エンド ユーザ専用の VM をプロビジョニングできます。 [ユーザへの割り当て] チェックボックスをオンにした場合、VM をプロビジョニングしたエンド ユーザに所有権が割り当てられます。 プロビジョニングの完了後、VM はエンド ユーザに割り当てられます。 [ユーザへの割り当て] チェックボックスをオフにした場合、VM は（IT）グループに対してプロビジョニングされます。 当該グループ内のユーザは、その VM を確認できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] > [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 2 [リクエストの作成] をクリックします。

ステップ 3 [リクエストの作成] ダイアログボックス（[カタログの選択] 画面）で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 次のいずれかを選択します。 • [標準]：このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。 • [詳細]：このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。 • [サービスコンテナ]：このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。 • [VDI]：このカタログ タイプは Xen Desktop で使用されます。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

ステップ 5 [カタログの選択] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ユーザへの割り当て] チェックボックス	このチェックボックスをオンにした場合、VM をプロビジョニングしたエンドユーザに所有権が割り当てられます。プロビジョニングの完了後、VM はエンドユーザに割り当てられます。[ユーザへの割り当て] チェックボックスをオフにした場合、VM は（IT）グループに対してプロビジョニングされます。 当該グループ内のユーザは、その VM を確認できます。
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 次のいずれかを選択します。 • [標準]：このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。 • [詳細]：このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。 • [サービスコンテナ]：このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。 • [VDI]：このカタログ タイプは Xen Desktop で使用されます。

名前	説明
[カタログの選択] ドロップダウン リスト	プロビジョニングするVMを選択します。 カタログはカタログ形式の VM です。

ステップ 6 [次へ] をクリックします。

ステップ 7 [導入設定] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[VDCの選択] ドロップダウン リスト	このチェックボックスをオンにした場合、VMをプロビジョニングしたエンドユーザに所有権が割り当てられます。 プロビジョニングの完了後、VMはエンドユーザに割り当てられます。 [ユーザへの割り当て] チェックボックスをオフにした場合、VMは（IT）グループに対してプロビジョニングされます。 当該グループ内のユーザは、その VM を確認できます。
[コメント] フィールド	カタログのタイプ。 次のいずれかを選択します。 • [標準]：このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。 • [詳細]：このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。 • [サービスコンテナ]：このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。 • [VDI]：このカタログ タイプはXen Desktopで使用されます。
[プロビジョニング] ドロップダウン リスト	プロビジョニングするVMを選択します。 カタログはカタログ形式の VM です。
[リース時間] チェックボックス	VM のリース時間。

ステップ 8 [次へ] をクリックします。

ステップ 9 [カスタム仕様] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[CPUコア] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM の CPU コアを選択します。
[メモリ] ドロップダウン リスト	プロビジョニングするVMのメモリ容量を選択します。

ステップ 10 [次へ] をクリックします。

ステップ 11 [サマリー] 画面を確認します。

既存のアプリケーション コンテナへの VM の追加

はじめる前に

管理者用のGUIを使用して、セルフサービスユーザがコンテナをプロビジョニングするための機能を定義します。 詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。管理者は、特定のグループにカタログを割り当てる必要があります。そのタスクが完了すると、セルフサービス ポータルでカタログとグループの関連付けを表示できるようになります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[カタログ] を選択します。

ステップ 2 カタログをクリックします。

ステップ 3 [サービスリクエストの作成] ダイアログボックス（[カタログの選択] 画面）で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 次のいずれかを選択します。 • [標準]：このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。 • [詳細]：このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。 • [サービスコンテナ]：このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。 • [VDI]：このカタログ タイプは Xen Desktop で使用されます。
[カタログの選択] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM を選択します。 カタログはカタログ形式の VM です。

ステップ 4 [カタログタイプ] ドロップダウン リストで、[サービスコンテナ] を選択します。

ステップ 5 [カタログ] ドロップダウン リストからカタログを選択します。

ステップ 6 [次へ] をクリックします。

ステップ 7 [導入設定] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[コメント] フィールド	カタログのタイプ。 次のいずれかを選択します。
[プロビジョニング] ドロップダウン リスト	[今すぐ] または [あとで] のいずれかを選択します。 [あとで] を選択した場合は、特定の時刻と日付を入力します。
[サービスコンテナ名] フィールド	サービス コンテナの名前。
[テナント] ドロップダウン リスト	（オンボーディング済みの）テナントを選択します。

ステップ 8 [次へ] をクリックします。

ステップ 9 [送信] をクリックします。
[送信結果] ダイアログボックスにより、サービス リクエストが正常に送信されたことが確認されます。

ステップ 10 メニュー バーで、[仮想リソース] > [アプリケーションコンテナ] を選択します。

ステップ 11 アプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 12 [VMの追加] をクリックします。

ステップ 13 [VMの管理] ダイアログボックスで、[鉛筆] をクリックします。

ステップ 14 [仮想マシンエントリの編集] ダイアログボックスで、次のフィールドを入力します。

名前	説明
[追加VM] フィールド	追加の VM インスタンス数。 （注） VMインスタンスの最大数は、管理者用の GUI を使用して定義します。 許容される値より大きい値を入力すると、エラー メッセージが表示されます。

ステップ 15 [送信] をクリックします。

第 4 章

サービス リクエストの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- サービス リクエストの管理，29 ページ
- サービス リクエストの承認，32 ページ

サービス リクエストの管理

以前に送信したサービス リクエストを表示、再送信、およびキャンセルできます。 グループのサービス リクエスト履歴を表示することもできます。

サービス リクエストの再送信

ユーザは失敗したサービス リクエストを再送信できます。 サービス リクエストは次の理由で失敗する場合があります。

- 時間の割り当て。
- VM をプロビジョニング中のグループのリソース制限を超えた場合。
- サービス リクエストの作成中にエンドユーザから正しい情報が提供されない場合のプロビジョニング。
- UCS Director とデバイスの間の接続の問題。

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] をクリックして、[サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 2 サービス リクエストを選択します。

ステップ 3 [リクエストの再送信] ボタンをクリックして、失敗したリクエストを再送信します（サービス リクエストを右クリックして、[リクエストの再送信] を選択することもできます）。

ステップ 4 [サービスリクエストの再送信] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ステップの再送信] ドロップダウン リスト	再送信ステップを選択します。 • エンド ユーザによる開始 • HyperV リソースの割り当て • プロビジョニング
[承認済みの場合は承認をスキップします]チェックボックス	オンにした場合、サービス リクエストがすでに承認済みの場合はステップをスキップします。 すべての承認を処理する場合は、このチェックボックスをオフにします。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

サービス リクエストのキャンセル

サービス リクエストを送信した後、何らかの理由がある場合にはリクエストをキャンセルできます。

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

手順

ステップ 1 メニューで、[サービス] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 キャンセルする必要があるサービス リクエストのエントリを選択します。

ステップ 3 [リクエストのキャンセル] をクリックします。

ステップ 4 [送信] をクリックしてサービス リクエストをキャンセルします。

グループのサービス リクエスト履歴の表示

エンド ユーザは作成されたすべてのサービス リクエストを表示できます。

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

手順

メニュー バーで、[サービス] をクリックして、[サービスリクエスト] タブを選択します（上記のステップ 1 を参照）。

グループのサービス リクエスト履歴の検索

エンド ユーザは任意のグループのリクエスト履歴を検索できます。

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[組織] > [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 2 検索フィールドに、テキストまたはサービス リクエスト番号を入力します。

（注） 条件はいずれかのカラムの任意のテキストにすることができます。

グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート

すべてのグループまたは特定のグループのサービス リクエストのレポートを表形式でエクスポートできます。

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 [レポートのエクスポート] アイコンをクリックして、サービス リクエストのレポートを生成します。
レポートは PDF、CSV、または XLS 形式でエクスポートできます。

サービス リクエストの承認

VM をプロビジョニングする前に、ユーザがサービス リクエストを承認する必要があります。 ユーザはサービスの管理者でも IT 管理者でも構いません。 サービス リクエストが開始されると、サービス リクエストのワークフローに VM の承認ステップができ、ここに承認者名が表示されます。 サービス リクエストに関する電子メール通知も承認者に送信されます。 承認されると、次のステップ（たとえば、プロビジョニング）が開始されます。

サービス リクエストの承認

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] > [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 2 サービス リクエストを選択します。

ステップ 3 [承認] をクリックします。

ステップ 4 必要に応じて、追加のコメントを入力します。

ステップ 5 [承認] をクリックして、プロセスを終了します。

サービス リクエスト承認履歴の表示

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

手順

メニュー バーで、[組織] タブをクリックして、[承認記録] > [承認記録] を選択します。
承認済みか保留かにかかわらず、すべてのサービス リクエストが一覧表示されます。

次の作業

サービス リクエスト履歴を検索します。

サービス リクエスト承認履歴の検索

エンド ユーザは現在のサービス リクエストのリストを検索できます。

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[サービス] > [サービスリクエスト] タブを選択します。
ステップ 2 検索フィールドに検索する用語を入力して、承認の現在のリストをフィルタリングします。

サービス リクエスト承認履歴のエクスポート

すべてのサービス リクエスト承認のレポートを表形式でエクスポートできます。

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[承認] > [承認記録] を選択します。
ステップ 2 [レポートのエクスポート] アイコンをクリックして、承認のレポートを生成します。

第 5 章

VM ライフサイクル管理の実行

この章は、次の内容で構成されています。

- VM ライフサイクル管理アクションについて，35 ページ
- VM の電力管理，36 ページ
- VM のサイズ変更，37 ページ
- VM ディスクの作成，38 ページ
- VM ディスクの削除，39 ページ
- vNIC の追加，40 ページ
- vNIC の置換，41 ページ
- vNIC の削除，41 ページ
- VM の詳細の表示，42 ページ
- VM クライアントの起動，42 ページ
- VM のインベントリ収集のリクエスト，43 ページ

VM ライフサイクル管理アクションについて

ユーザは、管理者によって許可されている、プロビジョニング後のライフサイクル管理アクションを実行できます。また、グループの下でサービスリクエストを使用して、プロビジョニングされた仮想マシン（VM）の全リストを表示することもできます。 特定のグループに属するすべての VM が表示されます。 実行可能なライフサイクル管理アクションは次のとおりです。

- VM の電源使用の管理
- VM のサイズ変更
- VM ディスクの作成
- VM ディスクの削除

- vNIC の追加
- vNIC の削除

すべての VM の表示

すべての VM を表示する機能を使用すると、すべての VM とVM ID、ホスト名、IP アドレス、および電源の状態などの詳細が表示されます。

（注） VM で VM アクションを表示するには、管理者がグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション] を有効にして、許可を与える必要もあります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] タブを選択します。

ステップ 2 リストから VM のエントリを選択するか、VM を右クリックしてその VM で使用できるアクションを表示します。

次の作業

VM のリソースを管理します。

VM の電力管理

VM の電源管理機能には、電源オン、電源オフ、電源の一時停止、VM のリセットなどが含まれています。

はじめる前に

VM をプロビジョニングします。

手順

ステップ 1 [仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックし、[電源オン] を選択します。
[VM タスク] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	VM の名前。

名前	説明
[タスク] フィールド	選択した電力管理タスク。
[コメント] フィールド	必要な場合は、コメントを入力します。
[アクションのスケジュール設定] フィールド	VM の電源を今すぐオンにするか、特定の日時にオンにするかを指定します。

（注） [類似フィールドのコメント] ペインと [アクションのスケジュール設定] ペインに、次のアクションが表示されます。

アクション	説明
[電源オフ]	VM の電源をオフにします。
[一時停止]	VM を一時停止の状態にします。
[ゲストのシャットダウン]	VM でゲスト OS をシャットダウンします。
[スタンバイ]	VM をスタンバイの状態にします。
[リセット]	VM のハード リセットを実行します。
[リブート]	VM のソフト リブートを実行します。

ステップ 3 [続行] をクリックします。

VM のサイズ変更

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。 管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション] を有効にして、許可を与える必要もあります。

手順

ステップ 1 [仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。
ステップ 2 VM を右クリックして [VMのサイズ変更] を選択します。
ステップ 3 [VMのサイズ変更] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	選択した VM の名前。
[現在の割り当てCPU] フィールド	VM によって使用中の割り当て済み CPU の数。
[現在の割り当てメモリ(GB)] フィールド	VM に割り当てられているメモリ容量。
[新しいCPU数] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから必要な CPU を選択します。
[新しいメモリ] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから必要なメモリ容量を選択します。

ステップ 4 [サイズ変更] をクリックします。

VM ディスクの作成

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。 管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション] を有効にして、許可を与える必要もあります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [VMディスクの作成] を選択します。

ステップ 3 [VMディスクの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	選択した VM の名前。
[新しいディスク(GB)] フィールド	VM のディスク サイズ（GB 単位）を入力します。
[ディスクタイプの選択] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから必要なディスクを選択します。

名前	説明
[データストアの選択] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストからデータストアを選択します。 （注） 使用可能なデータストアの選択肢は、VM（具体的には VM の vDC）に関連付けられているストレージ ポリシーに応じて変わります。
[シン プロビジョニング] チェックボックス	VM の作成中にシン プロビジョニングを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [作成] をクリックします。

VM ディスクの削除

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。 管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション] を有効にして、許可を与える必要もあります。

手順

ステップ 1 メニューで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [VMディスクの削除] を選択します。

ステップ 3 [VMディスクの削除] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	選択した VM の名前。
[ディスク名の選択] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストからハード ディスクを選択します。

ステップ 4 [削除] をクリックします。

vNIC の追加

複数の vNIC を VM に追加できます。 ユーザには vNIC を追加するか、または VM の vNIC を置換するかのいずれかのオプションがあります。 どのオプションが使用可能であるかは、vDC にマッピングされて、特定の VM に関連付けられたネットワーク ポリシーにより異なります。

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。 管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション] を有効にして、許可を与える必要もあります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして、[vNICの追加] を選択します。 [VM vNICの追加] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 [操作] ドロップダウン リストから、[追加] を選択します。
[編集] アイコンおよび [削除] アイコンは、このウィンドウの新しい vNIC を編集または削除するためだけに使用されます。

ステップ 4 [追加] アイコンをクリックして、vNIC を追加します。
このステップは、ネットワーク ポリシーで一定の数の vNIC に制限されている場合には、許可されません。

名前	説明
[NICエイリアス] ドロップダウン リスト	vNIC エイリアス。
[ポートグループ名] フィールド	ポートグループ名。
[アダプタのタイプ] ドロップダウン リスト	アダプタのタイプ。 この選択肢を選択するには、ネットワーク ポリシーで [テンプレートからのアダプタのタイプのコピー] を無効にする必要があります。
[DHCP] チェックボックス	DHCP を使用して IP アドレスを割り当てます。
[ゲートウェイIPアドレス] フィールド	ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 （注） VM（具体的には VM の vDC）に関連付けられているネットワーク ポリシーの設定に応じて、[NICエイリアス]、[ポートグループ名]、[アダプタのタイプ]、および [DHCP] の選択肢があります。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

vNIC の置換

置換操作を行うと、すべての既存の vNIC が VM から削除されます。 新しい vNIC は [追加] アイコンを使用して追加します。

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成し、既存の vNIC を使用可能な状態にしておきます。 管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション] を有効にして、許可を与える必要もあります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [vNICの削除] を選択します。
[VM vNICの削除] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 [VM vNIC] ドロップダウン リストから、vNIC を選択します。
[項目の選択] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 削除する vNIC のチェックボックスをオンにするか、[すべてオン] をクリックしてすべての vNIC を選択します。

ステップ 5 [選択] をクリックします。

ステップ 6 [削除] をクリックします。

削除プロセスを完了するために VM が再起動されます。

vNIC の削除

VM 上の既存の（または、複数の）vNIC を削除できます。

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成し、既存の vNIC を使用可能な状態にしておきます。 管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション] を有効にして、許可を与える必要もあります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。
ステップ 2 VM を右クリックして [vNICの削除] を選択します。
[VM vNICの削除] ダイアログボックスが表示されます。
ステップ 3 [VM vNIC] ドロップダウン リストから、vNIC を選択します。
[項目の選択] ダイアログボックスが表示されます。
ステップ 4 削除する vNIC のチェックボックスをオンにするか、[すべてオン] をクリックしてすべての vNIC を選択します。
ステップ 5 [選択] をクリックします。
ステップ 6 [削除] をクリックします。

削除プロセスを完了するために VM が再起動されます。

VM の詳細の表示

この機能を使用して、VM アクション リクエスト、vNIC、VM スナップショット、および一般的なサマリー情報などの、VM に関する詳細を表示できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。
ステップ 2 VM を右クリックして [詳細の表示] を選択します。
[サマリー] 画面が表示されます。

VM クライアントの起動

この機能を使用して、Web アクセス、リモート、または VNC コンソールのいずれかを設定できます。 VNC コンソールは各 VM にアクセスを提供します。 このコンソールは VM の完全な制御機能を備えています。 任意のスタンドアロン Web ブラウザを使用してアクセスできるため、プラグインは不要です。 Cisco UCS Director はコンソールの自動設定を可能にします。

（注） VM を Web またはリモート デスクトップ アクセスに設定しておくと、VM のログイン クレデンシャルにアクセスできます。 管理者は VM がプロビジョニングされる適切なカタログ（および必要な権限）を提供する必要があります。

はじめる前に

管理者が機能を有効する必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [VMクライアントの起動] を選択します。
[クライアントの起動] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 [クライアントの起動] ダイアログボックスから、アクセス スキームを選択します。

名前	説明
[アクセススキーム] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストからアクセス スキームを選択します。 スキームは VNC コンソール、Web アクセス、およびリモート アクセスです。

ステップ 4 [続行] をクリックします。
VNC コンソールが（Web ブラウザ内に）表示されます。 VM コンソールにアクセスするには、追加のログインが必要です。

VM のインベントリ収集のリクエスト

VM を選択して、オンデマンドのインベントリ収集をリクエストできます。

（注） 割り当て済みのリソースを変更すると、VMのチャージバック量が変更される可能性があります。 VM のチャージバックはカタログの管理者によって定義されたコスト モデルに基づいて計算されます。 VM のチャージバックは VM のプロビジョニング用に選択されたカタログに基づいて計算されます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [VMのインベントリ収集のリクエスト] を選択します。
[VMインベントリ収集のリクエスト] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 [送信] をクリックします。
VM インベントリ収集が完了されます。

第 6 章

VM スナップショットの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- VM スナップショットの管理，45 ページ
- VM スナップショットの表示，46 ページ
- スナップショットの作成，46 ページ
- スナップショットの復帰，47 ページ
- スナップショットをゴールデンとしてマーキング，48 ページ
- スナップショットの削除，49 ページ
- すべてのスナップショットの削除，49 ページ

VM スナップショットの管理

エンドユーザは、システムの障害や誤作動からの復旧の際に復元ポイントのスナップショットを作成して管理できます。 復元ポイントはある時点での VM の完全な状態です。 スナップショットを適宜に作成して、VM の現在の状態を保持することができます。 たとえば、潜在的なリスクのあるシステム操作を実行する前に、安定した状態の VM のスナップショットを作成しておくことができます。 複数のスナップショットを作成した後で VM スナップショットのサマリー レポートを表示して、将来使用するために保持しておくスナップショット（ゴールデン スナップショット）を決めることができます。 ゴールデン スナップショットは削除できません。

（注） VM から VM スナップショットのオプションにアクセスするには、管理者がグループの vDC で [VMスナップショット管理] を有効にして、許可を与えることが必要です。

はじめる前に

VM をプロビジョニングします。

VM スナップショットの表示

はじめる前に

スナップショットを表示するには、管理者がグループの vDC で [VMスナップショット管理] オプションを有効にする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] > [VM] を選択します。
ステップ 2 VM を選択して、[詳細の表示] > [VMスナップショット] タブをクリックします。
ステップ 3 表示するスナップショットを選択します。

スナップショットの作成

この機能では、すべての VM のリソースのスナップショットが現在の状態で作成されます。 特定のスナップショット（状態）に戻すこともできます。

（注） VM オプションでスナップショットの作成にアクセスするには、管理者はグループの vDC で [VMスナップショット管理] オプションを有効にして、許可を与える必要があります。

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。 管理者はグループの vDC で [VMスナップショット管理] オプションを有効にして、許可を与える必要もあります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。
ステップ 2 VM を右クリックして [スナップショットの作成] を選択します。
[仮想マシンのスナップショットの作成] ダイアログボックスが表示されます。
ステップ 3 次のフィールドとチェックボックスを入力します。

名前	説明
[スナップショット名] フィールド	スナップショットの名前。
[スナップショットの説明] フィールド	スナップショットの説明。

名前	説明
[スナップショットメモリ] チェックボックス	VM メモリを含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[ゲストのファイルシステムを休止] チェックボックス	休止モードでスナップショットを作成するには、このチェックボックスをオンにします。ファイルシステムの休止は、物理または仮想コンピュータのディスク上のデータをバックアップに適した状態にするプロセスです。 このプロセスには、ダーティなメモリ バッファをオペレーティング システムのメモリ内キャッシュからディスクにフラッシュしたり、その他のより高いレベルのアプリケーション固有のタスクを実行したりする操作が含まれる場合があります。 （注） このオプションを使用するには、VMware ツールを VM にインストールしている必要があります。

ステップ 4 [続行] をクリックします。

スナップショットの復帰

なんらかの理由で VM のクラッシュまたは誤動作が発生した場合、VM の最新のスナップショットに復帰させることができます。 使用可能な VM のスナップショットが複数ある場合は、特定のスナップショットを選択して復帰させることもできます。

（注） VM でスナップショットの復帰オプションにアクセスするには、管理者がグループの vDC で [VMスナップショット管理] オプションを有効にして、許可を与える必要があります。

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [スナップショットの復帰] を選択します。

[仮想マシンスナップショットの復帰] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

名前	説明
[スナップショット] チェックボックス	オンにした場合、スナップショットとして定義されます。

ステップ 4 [続行] をクリックします。

スナップショットをゴールデンとしてマーキング

スナップショットをゴールデンとしてマーキングすると、不用意な削除を防ぐことができます。ゴールデン スナップショットを削除する唯一の方法は、ゴールデン スナップショットのマーキングを解除する（標準のスナップショットに戻す）ことです。

（注） VMでスナップショットをゴールデンとしてマーキングするオプションにアクセスするには、管理者がグループのvDCで[VMスナップショット管理]オプションを有効にして、許可を与える必要があります。

はじめる前に

スナップショットを作成します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [ゴールデンスナップショットのマーキング] を選択します。
[ゴールデンスナップショットのマーキング] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

名前	説明
[スナップショット] チェックボックス	このチェックボックスをオンにして、スナップショットを選択します。
[ゴールデンスナップショットとしてマーキング] チェックボックス	このチェックボックスをオンにして、スナップショットをゴールデン スナップショットとして指定します。

ステップ 4 [続行] をクリックします。

スナップショットの削除

スナップショットは、ゴールデン スナップショットとしてマーキングされていない限り削除が可能です。 重要ではないと判断されるスナップショットを削除して、より新しいスナップショットのためにディスク スペースを増やすことができます。

（注） VM でスナップショットの削除オプションにアクセスするには、管理者がグループの vDC で [VMスナップショット管理] オプションを有効にして、許可を与える必要があります。

はじめる前に

スナップショットを作成します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [スナップショットの削除] を選択します。
[スナップショットの削除] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

名前	説明
[スナップショット] チェックボックス	スナップショットを選択するには、このチェックボックスをオンにします。
[子の削除] チェックボックス	選択したスナップショットの子を削除するには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [続行] をクリックします。

すべてのスナップショットの削除

ゴールデン スナップショットがなければ、すべてのスナップショットを削除できます。すべてのスナップショットを削除するには、最初にゴールデン スナップショットのマーキングを解除しておく必要があります。

（注） VM ですべてのスナップショットを削除するオプションにアクセスするには、管理者がグループの vDC で [VMスナップショット管理] オプションを有効にして、許可を与える必要があります。

はじめる前に

スナップショットを作成します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [すべてのスナップショットの削除] を選択します。
[すべてのスナップショットの削除] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

名前	説明
[すべてのスナップショットの削除] チェックボックス	すべてのスナップショットを削除するには、このチェックボックスをオンします。

ステップ 4 [続行] をクリックします。

第 7 章

エンド ユーザ レポートの表示

この章は、次の内容で構成されています。

- エンド ユーザ レポートの表示，51 ページ
- VM サマリーの詳細の表示，53 ページ
- 仮想リソースの詳細の表示，53 ページ
- vDC の詳細の表示，53 ページ

エンド ユーザ レポートの表示

エンドユーザ レポートを使用してさまざまなレポートにアクセスし、VM のライフサイクル アクションの管理に役立てることができます。サマリー ページには選択された VM とそのアクションに関する詳細情報が表示されます。

レポート セクション	説明
[概要]	
[VM ID]	VM ID 番号。
[クラウド名]	VM がプロビジョニングされるクラウド（基本的に 1 つの vCenter インストール）。
[インスタンス名]	VM インスタンスの名前。
[ステータス]	VM のステータス。
[IP アドレス]	VM のステータス IP アドレス。
[ホスト名]	VM が存在するホストの名前。
[ブート時間]	VM のブート時間。

エンド ユーザ レポートの表示

レポート セクション	説明
[所有]	
[グループ]	VM が属しているグループ。
[ラベル]	VM に定義された可能性のある任意のラベル。
[プロビジョニング時間]	VM のプロビジョニングの時間。
[予定終了時刻]	VM を終了する予定の時刻。 この時刻は、終了時刻が VM に定義されている場合に表示されます。
[リソース]	
[仮想CPUの数]	VM に割り当てられた仮想 CPU の数。
[メモリ(MB)]	VM に割り当てられたメモリ。
[ストレージ]	
[プロビジョニング済みの総容量(GB)]	VM に割り当てられたストレージ。
[ネットワーク]	
[vNIC数]	仮想ネットワーク インターフェイス カードの数。
[vNic Macアドレス]	仮想ネットワーク インターフェイス カードの Mac アドレス。
[ゲスト情報]	
[ゲストOS]	VM で実行中のゲスト OS。

VM サマリーの詳細の表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース] > [VM] を選択します。
ステップ 2 VM を選択します。
ステップ 3 [詳細の表示] を選択します。
ステップ 4 [サマリー] をクリックします。 VM サマリーの詳細が表示されます。

仮想リソースの詳細の表示

すべてのグループまたは特定のグループのサービス リクエストのレポートを表形式でエクスポートできます。

手順

ステップ 1 [仮想リソース] > [VM] をクリックして、[詳細の表示] を選択します。
ステップ 2 メニュー バーで、[サマリー] タブをクリックして、複数のウィジェットに表示される情報を表示します。

vDC の詳細の表示

サービス リクエストを使用してプロビジョニングされた VM を仮想データ センター（vDC）と関連付けることができます。 サービス リクエストを作成するときに、VM をプロビジョニングする vDC を選択できます。 VM をプロビジョニングするときに、グループに使用できる vDC のリストを表示して、必要な vDC を選択できます。 vDC 名、および VM の数（アクティブな数および総数）などの詳細が表示されます。

手順

メニュー バーで、[仮想リソース] をクリックして、[vDC] タブを選択します。 vDC の詳細が表示されます。

名前	説明
[ライセンスステータス] タブ	[ライセンスステータス] 画面に現在のライセンス情報が表示されます。
[サマリー] タブ	[サマリー] 画面には、CPU、メモリ、ディスクの使用量を記載した概要および傾向グラフなど、vDC の詳細情報が表示されます。
[vDC] タブ	[vDC] ページには現在アクティブな vDC のリストが表示されます。
[階層化されたアプリケーション] タブ	[階層化されたアプリケーション] 画面には、現在使用できる階層化アプリケーションがすべてリスト表示されます。
[VM] タブ	[VM] 画面には選択された vDC に属するすべての VM が表示されます。
[VMアクションリクエスト] タブ	[VMアクションリクエスト] 画面には、使用可能なすべてのアクション ID と関連情報が表示されます。
[ポートグループ] タブ	[ポートグループ] 画面には使用可能なポート グループとホストノード、vSwitch 名、ポート グループ名、ポート グループ タイプ、および VLAN ID などの、関連情報が表示されます。
[DVポートグループ] タブ	[DVポートグループ] 画面には使用可能なポート グループとホスト ノード、vSwitch 名、ポート グループ名、ポート グループ タイプ、VLAN ID、およびプロミスキャス モードなどの、関連情報が表示されます。
[リソースプール] タブ	[リソースプール] 画面には使用可能なクラウドおよび関連する設定情報がリスト表示されます。
[デスクトップ] タブ	[デスクトップ] 画面には、関連するインスタンスとカタログ名および割り当てステータスが一覧表示されます。
[その他のレポート] タブ	[その他のレポート] 画面には、さまざまな傾向が異なる（時間）期間ごとに一覧表示されます。

第 8 章

物理レポートの表示

- 物理リソースに関するレポートの表示，57 ページ

物理リソースに関するレポートの表示

これらのレポートに加えて、『Cisco UCS Director Administration Guide』で説明されているとおり、VM およびその他の項目について CloudSense 分析を作成できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[物理リソース] を選択します。

ステップ 2 物理リソースに関するレポートを表示するには、次のいずれかのタブをクリックします。

タブ	説明
VFiler	このタブでは、現在表示可能な vFiler および報告先のアカウントを確認できます。
Vservers	このタブには、使用可能な Vserver が示されます。
ボリューム グループ	このタブには、ボリューム グループのアカウント名、ボリューム グループ名、サイズ（GB）、使用可能なサイズ、ステータス、および SSN に関する情報が示されます。
サーバー	このタブには使用可能なサーバが示され、選択したサーバの電源をオンにする機能が提供されます。
サービス プロファイル	このタブには、物理リソースに関連付けられたサービス プロファイルが示されます。
VNX LUN	このタブには、物理リソースに関連付けられた VNX LUN が示されます。

タブ	説明
ブロックストレージプール	このタブには、物理リソースに関連付けられたブロックストレージプールが示されます。
RAIDグループ	このタブには、物理リソースに関連付けられた RAID グループが示されます。
ファイルストレージプール	このタブには、物理リソースに関連付けられたファイルストレージプールが示されます。
VNXボリューム	このタブには、物理リソースに関連付けられたVNXボリュームが示されます。
CloudSense	このタブでは、物理リソースに基づいてCloudSense分析レポートを生成できます。

ステップ 3 一部のレポートについては、テーブル バー上のアイコンをクリックすることにより、テーブル列をカスタマイズする、結果をフィルタリングする、または現在のテーブルの内容のレポートをエクスポートすることが可能です。

第 9 章

アカウンティング リソースの表示

この章は、次の内容で構成されています。

- リソース アカウンティングの詳細の表示，59 ページ
- チャージバックの表示，60 ページ

リソース アカウンティングの詳細の表示

[リソースアカウンティングの詳細] ページを使用して、選択したグループに属する VM のリソースの使用状況を表示できます。 アカウンティング プロセスは時間単位で実行されます。 この詳細ページには、次の情報が表示されます。

- VM（アクティブ/非アクティブ）時間
- CPU（予約済み/使用済み）時間
- メモリ（予約済み/使用済み）時間
- ディスク（コミット済み/非コミット）時間
- ネットワーク データ

はじめる前に

検査するグループを選択します。

手順

メニュー バーで、[アカウンティング] > [リソースアカウンティングの詳細] を選択します。

チャージバックの表示

[チャージバック] 画面に、特定のグループの VM のリソースの使用状況が表示されます。 コスト計算はグループの vDC に関連付けられたコスト モデルに基づいて行われます。

はじめる前に

検査するグループを選択します。

手順

メニュー バーで、[アカウンティング] > [チャージバック] の順に選択します。 チャージバックの詳細が表示されます。

第 10 章

エンド ユーザ ダッシュボードの表示

この章は、次の内容で構成されています。

- エンド ユーザ ダッシュボード ビューの有効化，61 ページ
- レポート ウィジェットの追加，61 ページ

エンド ユーザ ダッシュボード ビューの有効化

ダッシュボードはエンド ユーザとしてアプライアンスにログインしたときに最初に表示されるページです。

手順

ステップ 1 Cisco UCS Director ウィンドウの右上で、[ユーザ名] をクリックします。
ステップ 2 [ダッシュボード] タブをクリックします。
ステップ 3 [ダッシュボードの有効化] チェックボックスをオンにします。
ステップ 4 [適用] をクリックします。
ステップ 5 [ユーザ情報] ダイアログボックスを選択します。
ステップ 6 [ダッシュボード] の内容を確認します。

次の作業

該当するダッシュボード ビューにアクセスします。

レポート ウィジェットの追加

レポート ウィジェットを使用して、グループのリソース制限および vDC の詳細を表示することができます。 ダッシュボード ビューでのウィジェット データの表示には、自動または手動の更新

を設定できます。 自動更新には、ダッシュボード ページの上部にある [オン] または [オフ] をクリックします。 ウィジェットのサイズを大きくするまたは小さくするには、スライダを動かします。 スライダはダッシュボードの右上に表示されます。

手順

ステップ 1 レポートの右上をクリックします（[サマリー] タブの下にあります）。

ステップ 2 ドロップダウン リストから、[ダッシュボードに追加] を選択します。

ステップ 3 [ダッシュボード] をクリックして、ウィジェットを表示します。

第 11 章

ファイルのアップロード サービスの操作

この章は、次の内容で構成されています。

- OVF ファイルのアップロード，63 ページ
- OVF ファイルの導入，64 ページ
- OVF ファイルの削除，66 ページ

OVF ファイルのアップロード

管理者、グループ管理者、またはエンド ユーザは、Cisco UCS Director を使用して、OVF ファイル（zip 形式および jar 形式）を定義済みのストレージ ロケーションにアップロードし、グループまたは顧客組織に導入できます。

（注） OVF ファイルをアップロードして導入できる権限を持つタイプは、グループの管理者およびエンド ユーザのみです。

はじめる前に

適切なアクセス権があることを確認します。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [統合] の順に選択します。

ステップ 2 [ファイルのアップロード] タブをクリックします。

ステップ 3 [ファイルのアップロード] をクリックします。

ステップ 4 [ファイルのアップロード] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[フォルダタイプ] ドロップダウン リスト	OVF ファイルが含まれるフォルダのタイプ。 次のいずれかを選択します。 • [パブリック] : このファイルは、すべてのパブリック ユーザが利用できます。 • [ユーザ] : エンド ユーザである場合は、このロールを選択します。 エンド ユーザには広範囲の権限は付与されません。 ユーザ ロールは第 1 レベルのサポートに適していますが、その主要な目的は問題の識別、修復、およびエスカレートにあります。 • [グループ] : このファイルは、定義されたグループのユーザのみが利用できます。
[ファイル名] フィールド	アップロードおよび導入する OVF ファイルの名前。
[アップロードするファイルの選択:] フィールド	参照して必要なファイルを選択します。 [ファイルのアップロード] の確認ダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。 （注） ストレージ ロケーションにアップロードできるのは、zip および jar 形式の OVF ファイルのみです。 1.6 GB を超えるファイルはサポートされていません。
[ファイルの説明] フィールド	ファイルの説明（必要な場合）。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

ステップ 6 [1回の送信結果 - 正常にアップロード] ダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。 アップロードされたファイルは [ファイルのアップロード] タブからアクセスできます。

次の作業

OVF ファイルを導入します。

OVF ファイルの導入

管理者の場合、グループの仮想データ センター（vDC）を選択して、OVF ファイルをグループに導入する権限があります。 OVF ファイルが vDC に導入されると、ファイルが自動的に解凍され、vDC に関連付けられた VMware クラウドに VM が導入されます。

手順

ステップ 1 [管理] > [統合] > [ファイルのアップロード]タブを選択します。

ステップ 2 [ファイルの導入] をクリックします。

ステップ 3 [OVFの導入] ウィンドウで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[vDCの選択] ドロップダウン リスト	vDC を選択します。 （注） グループ管理者およびエンド ユーザはグループに関連付けられた vDC のみを表示できます。
[OVF URL] フィールド	選択した OVF ファイルのファイルの場所。
[VM名] フィールド	VM の名前。 VM 名を入力しない場合、デフォルト名が自動的に指定されます。
[ユーザ名] フィールド	OVF ユーザ名。
[パスワード] フィールド	OVF ファイルのパスワード。
[プロビジョニング] フィールド	VM をプロビジョニングする時間。 [現在] または [あとで] のいずれかを選択します。
[次の期間後にVMの電源をオフにする:] フィールド	VM の電源を自動的にオフにするまでの日数または時間。
[日数] フィールド	VM が自動的に削除されるまでに経過している必要がある日数。
[時間] フィールド	VM が自動的に削除されるまでに経過している必要がある時間を入力します。 VMは指定の日数および時間が経過した後で削除されます。

ステップ 4 [送信] をクリックします。
OVF ファイルの導入後、サービス リクエストが作成され、導入された OVF のステータスが表示されます。 詳細については、「サービス リクエストの表示」のトピックを参照してください。

OVF ファイルの削除

管理者の場合は、ストレージ領域にあるファイルを削除できます。

はじめる前に

Cisco UCS Director アプライアンスからファイルを削除するには、適切な権限を取得する必要があります。 サービスのエンド ユーザおよびグループ管理者には OVF ファイルを削除する権限があります。

手順

ステップ 1 [管理] > [統合] > [ファイルのアップロード] を選択します。

ステップ 2 ファイルを選択して、[ファイルの削除] をクリックします。
[ファイルの削除] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 [送信] をクリックします。

第 12 章

カタログを使用

この章は、次の内容で構成されています。

- カタログ管理について，67 ページ
- カタログの構成，68 ページ
- 高度なカタログ パブリッシングについて，68 ページ
- カタログの作成，69 ページ
- カタログの編集，73 ページ

カタログ管理について

事前定義されたカタログ項目を使用して仮想マシン（VM）のセルフプロビジョニングができます。 カタログは、システム管理者またはエンドユーザによって作成されます。 これは、VM がバインドされたクラウド名やグループ名などのパラメータを定義します。

カタログ管理に役立つものとして、Cisco UCS Director ではフォルダ内の類似カタログをグループ化できます。 カタログの作成時に、以前に作成された特定のフォルダを選択できます。 オプションで、そのカタログ用に新しいフォルダを作成できます。 フォルダはカタログが含まれている場合にのみ表示されます。

[カタログ] ページの [フォルダの管理] オプションでは、次のタスクを実行できます。

- フォルダの編集：ユーザが作成したフォルダの名前や、すべてのフォルダを表すフォルダ アイコンを変更します。 デフォルト フォルダの名前は変更できません。
- フォルダの削除：Cisco UCS Director からフォルダを削除します。 このフォルダにカタログが含まれていると、これらのカタログはカタログ タイプに基づいてデフォルトで使用可能なフォルダに自動的に移動されます。

  デフォルトで使用可能なフォルダは削除できません。
- フォルダのリストの並び替え：フォルダが [カタログ] ページに表示される順序を変更します。 デフォルトでは、フォルダはアルファベット順に表示されます。

次のフォルダはデフォルトで使用可能であり、それらを編集または削除できません。

- 標準
- 詳細
- サービスコンテナ
- VDI

重要 Cisco UCS Director を最新バージョンにアップグレードした場合は、以前のバージョンで作成されたすべてのカタログはカタログ タイプに基づいて、使用可能なフォルダにデフォルトでグループ化されます。

カタログの構成

Self-Service Portalでは、カタログを名前で管理しています。 フォルダ名は自動的に生成され、アルファベット順に編成されます。カタログ ウィザードを使用してカタログを作成すると、カタログを配置するフォルダを選択できます。 たとえば、標準のカタログを作成すると、カタログが配置される標準のフォルダが自動的に生成されます。 新しいカタログを作成し、一意の名前を割り当てることもできます。 管理者用のGUIを使用して作成されたカタログ フォルダは、Self-Service Portalに表示されます。 [カタログ]ペインでは、[上へ]および[下へ]のアイコンを使用して、カタログのフォルダを整理することができます。

（注） [フォルダの管理]アイコンを使用してフォルダを選択し、それを既存のフォルに関連付けて移動することもできます。

管理者は、カタログを Cisco UCS Director で作成する際に、そのカタログを表示できるユーザ グループまたは特定のユーザを指定できます。 選択されたグループに属するユーザのビューには、指定されたカタログが取り込まれます。

高度なカタログ パブリッシングについて

高度なカタログ タイプを選択すると、エンド ユーザにワークフロー カタログをプロビジョニングできます。エンドユーザは、ワークフローを実行するサービス要求中にこれらのカタログを使用できます。 高度なカタログ項目は、グループ名、ワークフローなどのパラメータを定義することにより作成します。

カタログの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [カタログ] をクリックします。

ステップ 2 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 3 [カタログの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドに入力します。

名前	説明
[カタログのタイプ] ドロップダウン メニュー	次のリストから値を選択します。 • **[標準]**：このカタログ タイプは一般的なサービス リクエスト（汎用 VM プロビジョニング）に使用されます。 • [詳細]：このカタログ タイプはワークフローの実行用です。（このワークフローは）呼び出し可能で、エンド ユーザも実行できます。 • [サービス コンテナ]：このカタログ タイプはアプリケーション コンテナの VM プロビジョニング用です。 • [VDI]：このカタログ タイプは XenDesktop プロビジョニング用です。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

ステップ 5 [基本情報] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。 （注） カタログを作成した後では、名前は変更できません。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	これは、前の手順ですでに選択されています。
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。 このアイコンは、このカタログを使用してサービス リクエストを作成するときに表示されます。

名前	説明
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。
[イメージ] ドロップダウン リスト	このカタログを使用してVMをプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成するWindowsファイル、Linux ファイル、およびそのほかのファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。
[フォルダの選択] ドロップダウン リスト	カタログのフォルダを選択します。

ステップ 6 [次へ] をクリックします。

ステップ 7 [アプリケーションの詳細] ペインで、次のフィールドを編集します。

名称	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス] フィールド	このカタログ項目を使用してサービス リクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メール アドレス。
[OSの指定] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング時に、VMにインストールされる OS のタイプを選択します。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のOSの指定] フィールド	[OSの指定] リストにない OS。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[アプリケーションの指定]チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスのアプリケーションのチェックボックスをオンにします。 これらのアプリケーションはプロビジョニング中に VM にインストールされます。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のアプリケーションの指定] フィールド	[項目の選択] ダイアログボックスにないアプリケーション。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

名称	説明
[アプリケーションコード] フィールド	VM名に使用するアプリケーション コード。アプリケーション コードは1～4文字です（例：W2K3、DB、WS）。 VM 名のシステム ポリシーでアプリケーション コードを使用するには、変数 ${APPCODE} を使用します。 たとえば VM 名のテンプレートが vm-${GROUP_NAME}-${APPCODE} の場合、システム ポリシーを使用してプロビジョニングされた VM の名前は vm-groupname-W2K3 になります。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

ステップ 8 [次へ] をクリックします。

ステップ 9 [ユーザクレデンシャル] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[クレデンシャルのオプション] ドロップダウン リスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル（共有）の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザID] フィールド	ユーザ ID。 （注） このオプションは、[クレデンシャルのオプション] の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。 （注） このオプションは、[クレデンシャルのオプション] の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。

ステップ 10 [カスタマイズ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	VM のプロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[ワークフロー] ドロップダウン リスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。 （注） このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション]がオンの場合に表示されます。
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[非アクティブなVMアプリケーションコスト] フィールド	時間あたりまたは月あたりに、非アクティブな VM のカタログにかかるコスト。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

ステップ 11 [次へ] をクリックします。

ステップ 12 [VMアクセス] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[Webアクセス設定] チェックボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 VM への Web アクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[URL] フィールド	VM の URL。 （注） このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	この URL に定義されたラベル （注） このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定] チェックボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 VM へのリモート アクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

名称	説明
[サーバ] フィールド	サーバのリモート アクセス用 IP アドレス。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ポート] フィールド	サーバのリモート アクセス用ポート番号。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。

ステップ 13 [次へ] をクリックします。
ステップ 14 [サマリー] ページのカタログ情報を確認します。
ステップ 15 [送信] をクリックします。

カタログの編集

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー] > [カタログ] の順に選択します。
ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。
ステップ 3 編集するカタログ名を選択します。
ステップ 4 [編集] をクリックします。
ステップ 5 [カタログの修正] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[基本情報] ペイン	
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。 （注） カタログを作成した後では、名前は変更できません。

名称	説明
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 この属性の種類は次のとおりです。 • [標準]：クラウドリストにあるイメージを使用してVMプロビジョニングのためのカタログを作成する場合に使用します。 • [詳細]：カタログ項目などのオーケストレーション ワークフローを公開する場合に使用します。 • [サービスコンテナ]：カタログ項目としてアプリケーション コンテナを公開する場合に使用します。 • [VDI]：カタログ項目として Xen Desktop を公開する場合に使用します。
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。 このアイコンは、このカタログを使用してサービスリクエストを作成するときに表示されます。
[すべてのグループに適用] チェックボックス	すべてのグループがこのカタログを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。 他のグループが使用できないようにするには、このチェックボックスをオフにします。
[選択されたグループ]チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスから含めるグループのチェックボックスをオンにします。 オンにしたグループは、新しいVMをプロビジョニングするときにこのカタログを使用します。
[エンドユーザへ公開] チェックボックス	このカタログをエンドユーザに表示しない場合は、このチェックボックスをオフにします。 このチェックボックスをオフにしなければ、このカタログがシステムのエンドユーザに表示されます。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。

名称	説明
[イメージ] フィールド	このカタログを使用してVMをプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成する Windows ファイル、Linux ファイル、およびそのほかのファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。
[Windowsライセンスプール] フィールド	Windows ライセンスを選択します。 （注） このオプションは、Windows イメージが選択されて場合にのみ表示されます。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。 ストレージ ポリシーで各ディスクに対して設定されているデータストアを使用することも選択できます。 複数ディスク ストレージ ポリシーの作成の詳細については、8-1 ページの「ポリシーの管理」を参照してください。 （注） このオプションは、選択されたテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[サービスコンテナテンプレート名] ドロップダウン リスト	リストからテンプレートを選択します。 （注） このオプションは、カタログ タイプがサービス コンテナである場合に表示されます。
[XenDesktop カタログ] ドロップダウン リスト	Desktop Studio で設定された XenDesktop 専用カタログのリストからテンプレートを選択します。 （注） このオプションは、カタログ タイプが [VDI] である場合に表示されます。

名称	説明
[フォルダの選択] ドロップダウン リスト	このカタログの作成先となるフォルダを選択します。 （注） ドロップダウン リストには、デフォルトで使用可能なフォルダの名前が含まれます。 使用可能なフォルダを選択するか、または [+] アイコンをクリックして新しいフォルダを作成します。 [新しいフォルダの追加] ダイアログボックスで、フォルダ名を指定し、フォルダのアイコンを選択します。

ステップ 6 [次へ] をクリックします。

ステップ 7 [Applications Details（アプリケーションの詳細）] ペインで、次のフィールドを編集します。

名称	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス] フィールド	このカタログ項目を使用してサービス リクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メール アドレス。
[OSの指定] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング時に、VMにインストールされる OS のタイプを選択します。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のOSの指定] フィールド	[OSの指定] リストにない OS。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[アプリケーションの指定]チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスのアプリケーションのチェックボックスをオンにします。 これらのアプリケーションはプロビジョニング中に VM にインストールされます。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のアプリケーションの指定] フィールド	[項目の選択] ダイアログボックスにないアプリケーション。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

名称	説明
[アプリケーションコード] フィールド	VM名に使用するアプリケーション コード。アプリケーション コードは1～4文字です（例：W2K3、DB、WS）。 VM 名のシステム ポリシーでアプリケーション コードを使用するには、変数 ${APPCODE} を使用します。 たとえば VM 名のテンプレートが vm-${GROUP_NAME}-${APPCODE} の場合、システム ポリシーを使用してプロビジョニングされた VM の名前は vm-groupname-W2K3 になります。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

ステップ 8 [次へ] をクリックします。

ステップ 9 [ユーザクレデンシャル] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[クレデンシャルのオプション] ドロップダウン リスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル（共有）の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザID] フィールド	ユーザ ID。 （注） このオプションは、[クレデンシャルのオプション] の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。 （注） このオプションは、[クレデンシャルのオプション] の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。

ステップ 10 [次へ] をクリックします。

ステップ 11 [カスタマイズ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	VM のプロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ワークフロー] ドロップダウン リスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。 （注） このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション]がオンの場合に表示されます。
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[非アクティブなVMアプリケーションコスト] フィールド	時間あたりまたは月あたりに、非アクティブな VM のカタログにかかるコスト。 （注） RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

ステップ 12 [次へ] をクリックします。

ステップ 13 [VMアクセス] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[Webアクセス設定] チェックボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 VM への Web アクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[URL] フィールド	VM の URL。 （注） このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	この URL に定義されたラベル （注） このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合に表示されます。

名称	説明
[リモートデスクトップのアクセス設定] チェックボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 VM へのリモート アクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[サーバ] フィールド	サーバのリモート アクセス用 IP アドレス。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ポート] フィールド	サーバのリモート アクセス用ポート番号。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。

ステップ 14 [次へ] をクリックします。

ステップ 15 [サマリー] ページでカタログ情報を確認します。

ステップ 16 [送信] をクリックします。